



▲令和3年度に開催した男女共同参画プラン推進懇談会。来年度はより広く意見を募集し、計画策定に活かします

**S** D G s への意識が高まる中、「女性登用」の動きが活発化しています。女性活躍やダイバーシティー（多様性）の推進が叫ばれ、多くの企業や事業所が女性役員の比率を高めようとしています。やはり女性登用はハードルが高く、なかなか進んでいないのが現状です。

令和元年の日本の就業者に占める

女性の割合は44・2%で、諸外国と比較して大きな差はありません。しかしながら、同年の管理的職業従事者に占める女性の割合について見ると14・9%であり、諸外国と比べて依然として際立って低い水準となっています（男女共同参画白書より）。

令和元年の雇用者における非正規雇用者の割合を見ても、男性22・2%に対し、女性は56・1%です。また、第1子出産後の女性の継続就業割合は53・1%（平成29年度）で、半数近くの女性が出産を機に離職しています。こうした数字からも分かるように、日本は未だ家事や育児などの家庭における女性の負担が大きく、女性の継続就業が困難になり、女性登用にも歯止めをかけてしまっていると考えられます。

### 本町の女性登用は約2割

それでは、桑折町の女性登用状況を見てみましょう。地方自治法に基づく審議会への女性参加割合を見ると、女性比率は23・4%となっています。

誰もがいきいきと輝ける社会を目指して

## SDGsから見る

## 男女共同参画

ます（令和3年度）。年々女性参加割合は増えていますが、国が掲げる「指導的地位に女性が占める割合を30%にする」という目標には、まだ届いていない状況です。

この数値を上げるには、職場でも家庭でも、「男女の区別なく、平等に自分らしく過ごせる環境をつくること」が必要不可欠です。町では、来年度に「第三次桑折町男女共同参画プラン」を策定し、向こう10年間を見据えたさまざまな施策を検討していきます。今後町民の皆さんから意見を募りながら、町の実情を踏まえた本町らしい計画を作成します。

この機会に、誰もがいきいきと輝ける社会を目指し、男女共同参画に目を向けていきましょう。

### SDGs宣言のまち

町は、「地方創生SDGs推進の町」と宣言し、各分野であるゆることに取り組んでいます。17の目標のうち、今月は「5:ジェンダー平等を実現しよう」に関する内容を紹介しました。まずは身の回りのことから実践してみましよう。

5 ジェンダー平等を実現しよう

